

行動に移す

体育 長井 篤史

1年間という短い間でしたが、その中でたくさんの事が学べた1年間だったと思います。

岐阜高校では、体育の授業でバドミントンやソフトボールを一緒にやったり、専門ではありませんでしたが副顧問として柔道部へ毎日行ったり、陸上部の生徒の活躍を競技場で見たり、また顧問ではないのに将棋部の生徒と将棋を指したり、他にも生徒会の子とクイズ大会について遅くまで学校に残って計画を立てたり、昼休みに早弁をしてきた男子生徒とバスケットボールをしたりと、本当にたくさんの場面で皆さんとかかわることができました。そしてその中で、自分がどうなりたいたのか、何をしたいのかという意志や、自分の意見を持つことの大切さを学びました。また同時に、岐阜高校は勉強だけでなく、本当に考えることのできる生徒たちの集まりだということに改めて感じました。

最後に私からも皆さんに対して、1つだけメッセージを送りたいと思います。それは、行動に移すということです。先ほども言いましたが、ここにいる一人一人は、こういう人間になりたい、こういうことがしたい、というように素晴らしい考えや目標を持っています。しかし、周りの目を気にしたり、意見の対立を避けようとしたり、自分ではダメだと思って自信が持てなかったりと、せっかくの考えを表に出せない場面も多く見受けられます。もうすぐ新入生が入学してきますが、皆さんが入学したばかりの頃の気持ちを思い出してください。少しの勇気を持って行動すれば、きっと自分の考え、目標は実現へと大きく前進するはずです。1度きりの人生、自ら積極的に行動し、やりたいことを思い切りやってください。

最後になりましたが、これからも皆さんのご活躍を期待しています。1年間本当にありがとうございました。さようなら。

マラソンを通して学んだこと

養護 大澤 友聖

来年度から新規採用として赴任することになりました。採用試験に合格することができたのは、ここにいる先生方や、生徒の皆さんのおかげだと思っています。特に、部活動と一緒に過ごした部員たちからは本当にたくさんのパワーをもらいました。毎日一生懸命練習して、どんなに体力的にも精神的にも疲れ

ていても家に帰って毎日こつこつ勉強する姿勢には、今まで受験勉強を後回しにしてしまっていた私に、よし！私もやるぞ！とがんばる気持ちを起こさせてくれました。嫌なことから逃げていたら、この結果は出なかったと思います。なにより、毎日学校に来るのが楽しみで、養護教諭になりたい、絶対合格したい、という夢を諦めずに持ち続けることができました。

合格して、ひと段落して余裕ができたとき、新しいことに挑戦してみたくなり、20代最後の記念にフルマラソンを完走すると決めました。始めてみると、初めは順調でも30kmを過ぎてからはものすごくつらかったのですが、なんとか6時間弱かかって完走することができました。42.195kmの道のりの長さだったり、足が棒になってどんどん動かなく感じだったり、何度も歩いてしまった後悔だったり、自分の意志がこんなにも弱いのか…と知ることができたのも、走ってみたからこそわかることばかりでした。足の痛さや尋常ではない筋肉痛は時間が経てば忘れますが、走り切った達成感とマラソンを通して学んだことは自分の中に残っています。どんどん後ろの人に追い越されていくし、みんな走っているのになんで自分は歩いているんだ…と苦しかったけど、立ち止まらずにゆっくりでも歩いてれば前に進んでいるとわかったし、あきらめなければ絶対ゴールできることもわかりました。フルマラソンに挑戦するという事で、応援して下さった岐阜高校の先生たち、全く知らないけれど沿道で応援してくれている人、給水所や大会運営に協力してくれるボランティアの人、どんなことも周りで支えてくれている人がいるおかげで達成できるということに改めて経験することができました。たった6時間のフルマラソンを人生にたとえて考えるのは少し大げさかもしれませんが、夢や目標などに挑戦していると、苦しいことやあきらめたり途中でやめてしまいたくなったりすることが絶対あると思います。でもそこから逃げるのではなく、自分は一人でがんばっているのではなく、周りにはものすごくたくさんの応援してくれて支えてくれている人がいるという当たり前の幸せに感謝することを忘れず、これからも夢と目標をもって挑戦していこうと思います。皆さんも最後までがんばってほしいと思いますし、わたしは皆さんが目標を達成することができるよう支えて応援していく一人になりたいと思っています。

2年間本当にありがとうございました。これからもよろしくお祈りします。

幸福とは

英語 高木 裕子

7年間お世話になりました。この7年はまるでジェットコースターのようでした。楽しい時、充実した時ほど短く感じるものかもしれません。

岐高新聞3月号を読んでいただきましたか。新聞委員会が一生懸命作ってくれています。私は毎年寺山修司の「幸福論」について書くのですが、ここで最後に、少し詳しく紹介します。

寺山修司は、高校生時代に短歌を投稿し、世間から注目されました。短歌を、自分の思いを表現する手段とし、そして東京の大学に入り、やがて演劇に出会います。

本も書きました。たくさんありますが、代表作は『家出のすすめ』、『書を捨てよ、町へ出よう』です。図書館で発行される『一燈』には、必ず推薦図書として挙げていました。実は、これらを読んだ60年代の若者が、どんな家出をしてしまっただけで…どうしてくれるんだ！とご家庭からクレームの出たいわくつきの本です。実際に、寺山修司は家出してきた若者を集めて劇団を作ったりもしたのですが、それは別の話として…。さて演劇の世界では、舞台・舞台上の役という虚構と、現実とを行ったり来たりします。ここにドラマが発生するのですが…これも別の話として、そうした現実と虚構の間から、彼が伝えたかったことは何か。それはけっこうシンプルで、「想像力と行動力によって、人生は豊かになるのではないか」ということだと思います。

引用します。「事実の積み重ねとして、絶対的に思える歴史ですら、想像力によって書き換えることができる…勝者と敗者など、どの側面から見るとかで全然違う歴史が描ける。過去に存在した国家が、虚構であり、もはや存在しない幻影である『過去』をしばしば作り替えながら、伝承してきたように、私たちひとりひとりも、それぞれの思考の中で自らの望む真実として、目の前の偶然を、想像力によって再び創造していく…そうした構想力が必要なのだと思います。」

また、古来からの人類の根源的な問いとして、「幸福とはなにか」があります。

「これまで多くの幸福論が書かれてきました。それは、『世の中と自分との折り合いが

なくなると、世の中を変革して自分に適合させることは大変だから、自分自身が変わることによって世の中に適応していきなさい』と教えています。フランスの哲学者アランは『悪い天気の日には、せめていい顔をするものだ』とさえ言っています。」

果たしてそうでしょうか。こうした「悪い天気」そのものを根源的になくしていこう、という冒険の中にこそ、幸福があるのだと寺山修司は考えるのです。

『家出のすすめ』、すなわち「自分は～である」という決められたコースから離れ、「～である」という世界から自分を解放すること。「自分は～である」というのは要素の一つであり、全部ではないわけです。「何も、目標も計画も定まっていなからこそ、家出という行動を媒介として目標を定め、計画を組み立てなければならないのであり、与えられた幸福の中にいるからこそ、それを越えなければならない。」そして「町へ出る」のです。英語でいう engagement, フランス哲学でいう「アンガージュマン」です。自分の足で歩き、感じ、考える…その結果、元に戻ることもあれば、別の方向へ進むこともある。大事なことは、自分で組織・構成・創造していくという点です。この姿勢が、社会を作っていくのだと思います。

実際には、いろいろな壁にぶつかります。こうも言っています。「不自由を知るものでないと自由は語れません」。「人生のくらい部分を見ない人間には、その深さはわからない。」『幸福論』から引用します。「誰もが幸せを求め、幸福とは何かを思考します。幸いとは、こうした人の営みから作られる『物語』であり、他者に定義されるもの、強制される種類のものではないのです。…幸いは『山のあなたの空とおく』かも、『青い鳥』のように身近にあるのかもしれない。」

『十五才』という歌集から一つ、最後に紹介します。「わがカヌー、さみしからずや幾たびも、他人の夢を川岸として」

7年前の今日、前の学校の生徒に大いに心配されながら、岐阜高校にやってきました。その心配は全くの杞憂で、あっという間に生徒諸君のパワーに巻き込まれ、あっという間の7年でした。

岐高生は、当初畏れていたような「すでに何かもっている」人ではなかった。自分自身を、試行錯誤もしながら積み上げて作っていく、そんなプロセスを生徒諸君と過ごしまし

た。「何事もよく楽しみ」、「ほんとうよく努力する人たち」だと思いました。そして努力の果てには、その積み上げた上でしか見られない究極の境地があります。そうした「しびれるような」境地を何度も経験しました。

生徒会では、計 14 期の生徒会執行部と活動をしました。岐高祭の始まった瞬間、終わった瞬間の司会席、生徒会予算の完成…皆さんの協力と努力をひしひしと感じ、本当に毎回ゾクゾクしていました。演劇部の皆さん、春の公演、いいお芝居でしたね。イキイキ活動している姿に人は集まります。新入部員をたくさん集めましょう。3 年間を一緒に過ごした卒業生の皆さん、一緒に卒業になりました。これからは、岐高生の頑張りを胸に刻んで、私も応援団になります。

このように、岐阜高校で、私もたくさんの幸いを見つけることができました。またこれから新たに探す旅に出発です。皆さんとは違う桜を見る春になってしまいましたが、同じ桜を見ているのだと思うことにします。「涙は、人間の作る一番小さな海です。」これも寺山修司の歌です。

それぞれの幸いを携えてまた、必ず会いましょう。ありがとうございました。

◆ ■ 1 月 12 日(木)

■ 職業・学問体験プログラム 国連系

「平和のためのお仕事 国連職員とは？」
～リアルサバイバルゲーム？森の中で働く国連職員の話～

〔講師〕 榎谷恒孝（国連開発計画職員）

UNDP（国連開発計画）の職員である榎谷氏は、コンゴ民主共和国で勤務なさるようになって 2 年です。先月末までの職場は電気も水道もない小さな町で、日々の生活はサバイバルさながらだったそうです。

国際協力の現場の様子や、紛争の絶えない不安定な地域の現状、平和のために尽くすことや、異なるバックグラウンドを持つ人々との接し方についてお話いただきました。当日の参加生徒は 53 人でした。

人生の転機について

私は大垣市出身です。中学から愛知県の中高一貫校へ進学しました。そこは男子校で私は柔道部に所属していましたが、弱くてさえない学生だったと思います。転機となったの

が高校 3 年生の時に阪神淡路大震災の復興ボランティアに参加したことです。その後大学院へと進み、国際開発を専攻してタイの教育政策に関する研究を行い、一年間の留学を経験しました。高校時代に震災に触れ、大学で貧困を知り、大学院ではアジアを研究テーマにしたことが、その後の自分の進路に影響しました。

大学院卒業後は青年海外協力隊に応募し、村落普及開発員としてブルキナファソで二年間働きました。こうした経験をもつ人材は企業などで求められることもあり、任期終了後は商社への就職が決まり、アルジェリアに勤務する機会を得ました。しかし、学生時代にあまり勉学に励んでいなかったことから、もう一度きちんと英語を学ぶ必要があると感じ、イギリスのマンチェスター大学の大学院に進学しました。30 歳を過ぎて英語と国際協力について学び直したのです。

その後は国際協力という仕事を選び、国際協力機構（JICA）に勤務して東京やコンゴ民主共和国の事務所で調査員やコンサルタントを、世界食糧計画（WFP）では東京でコンサルタントを経験し、現在の国連開発計画（UNDP）職員に至ります。仕事を次々に変えているという印象をもつかもかもしれませんが、こうしたことは海外では珍しくありません。転職がステップアップにつながっているか、または転職する理由がきちんとしているかが大事です。日本のように一つの職場で勤務し続けることをよしとする価値観とは異なる考え方が、海外にはあります。

様々な経歴を重ねる中で、国連で働くという思いが強まり、今の自分があります。

国連について

国際連合の設立の目的、組織、現在の事務総長などについては、皆さんもご存じのことが多いと思います。国連の下部組織の 1 つに私が所属する国連開発計画があり、ここは他の機関には当てはまらない事業などを行う総合的な機関です。国連はそもそも大きな会社のようにあり、様々な仕事があります。事務方、現場で働く者、パイロットなど、各分野の専門家が集まっています。その中で私は国際開発を専門とし、現場で働いています。

コンゴ民主共和国はベルギーの植民地だったことから、フランス語が公用語です。この国には悲しい歴史があります。ベルギーの植民地時代に残虐な扱いを受け、奴隷が 500 万人も殺されました。独立直後は、GDP が高

水準であるにも関わらず、モブツ大統領による独裁政権が 32 年も続いたことで貧困問題が深刻になりました。また資源を巡る内戦が起り、第 2 次世界大戦後、世界で最も多くの死者や被害が出ました。現在でも国の東部は政府の統治が及ばない場所で、反乱軍による略奪や暴力の被害が多数報告されています。この国では、性暴力の被害の深刻さが目立ちます。男性の性欲を満たすためではなく、村を支配するための道具として性暴力が行われるのです。

このような国での、我々 UNDP 職員の仕事とは、Governance (司法, 治安セクター, 選挙支援, 政府能力強化) と Poverty Reduction (コミュニティ開発, 持続可能な環境開発) の 2 つがあります。前者は、何か犯罪が起きたときに、警察・裁判所・刑務所など、それぞれの機関がうまく機能するように訓練しシステムを整える手助けをする仕事です。驚くべきことに、法をよく知らないで警察官をやっている人もいるため、気分で人を逮捕することがあります。また、給料が支払われなかったり低かったりするために、警察官のなり手がいません。また裁判所がなかったり、刑務所が人であふれかえったりして、不処罰が横行する事態になっています。そこで、日本政府の資金援助を受けて国家警察民主化プロジェクト (国連と JICA の共同プロジェクト) を立ち上げ、警察官を訓練し、公用語であるフランス語の教育を施すなどの取り組みをしています。後者は、紛争影響地域の Community Recovery が主な内容です。2009 年に起きた民族間の紛争により、14 万人が隣国に避難し難民となりましたが、現在はほぼ全員が戻ってきています。非常に貧しい地域で、水も電気も野菜もありません。教育レベルも低く、女性の地位が低いのです。そして仕事に就けない若者が多くいます。我々はコミュニティが力をつけて、自分達で問題を解決するためのサポートを行うのですが、その中の一つにコミュニティラジオの支援があります。唯一のコミュニケーション手段がラジオで、しかも視聴が無料であることが普及の要因です。また相互保険システムの構築の支援も行っています。

海外や国際機関で働きたいと思っている人へのアドバイスです。一つめは外の世界に出て世界の常識を知ることです。学校以外の世界にコネクションがあるとよいですし、今のうちに知識をきちんと身につけ、記憶力を鍛

えることも必要です。二つめはできるだけ外国語を使えるようにしましょう。私は 25 歳からフランス語を学びましたが、若いうちに始めるのがおすすめです。アフリカは多民族間で話さなくてはならないため、数カ国語を操る人が多いのです。三つめは、分析的・批判的思考を身につけてほしいということです。日本にいと、他人と同じ意見をもたなくては、とちがちですが、外国ではそうはなりません。自分の意見をしっかりとつことが求められます。意見が対立したときは、他人は他人、自分は自分と割り切ることも大切です。ただし、自分の意見とは合わない意見も聞いてみましょう。また、インターネット社会ですので、情報を鵜呑みにしないことも大切です。四つめはハードスキルとソフトスキルを身につけることです。専門性(ハードスキル)を身につけることは強みとなります。ない場合もソフトスキルがあれば何とかあります。ソフトスキルとは、人とのつきあい方のことで、先を読んで動くことや、人のことを考えて動くことなどです。日本人はきちんと仕事をする力があるので、それに加えて批判的・建設的な意見を交わすことができると、海外でも通用すると思います。最後に、自信と謙虚さをバランスよくもって、信念を貫いてください。この部分は自分は強いぞ、ということ自信にしてください。そして、どんな仕事でも価値は同じです。海外に出ることだけが重要ではなく、自分のやりたいこと、やれることを見つけ、楽しいことを続けてください。

■質疑応答

Q : 海外援助を行う中で、今一番足かせになっていることは何ですか？

A : 人や国によって、一番大切に思うことが異なることです。もちろん各々が主張する支援内容はどれも大切ですが、どの支援から重点的に行うかとなると、支援する国の間での対立が生じることがあります。

Q : 途上国では裁判制度が整っていないように思うのですが、司法制度支援について何か問題はありますか？

A : 例えばカンボジアの支援を行おうとしたとき、宗主国はフランスなのでフランス式の司法制度を導入しています。そのため、日本の制度をそのまま導入するのは困難です。が、裁判員の指導や調停制度の支援は可能です。このように各国の歴史的背景を

踏まえて支援を行うことが大切です。

Q： 他国の人々と触れ合う中で、印象深かったことやイライラしたことはどんなことですか？

A： 周りに遠慮せず休暇を取ることができることです。日本では長期休暇を取るのなかなか難しく、この点は外国との大きな違いだと思います。一方で、新しい職場へ入ったときに何の指示もないのはとても困ります。仕事の引き継ぎがないことについては、カルチャーショックを受けました。

Q： 榎谷さんのこれからの夢は何ですか？

A： アフリカに入って 10 年(JICA でブルキナファソ勤務になって以来)、国連に入って 2 年ほど経ちます。現地に入ってその国の人とのつながりができてくると、愛着が湧いてきますので、これからもっと貢献したいと考えており、それを果たことが今の夢です。

Q： 開発を進めることが、必ずしも相手国のプラスになるとはいえない気がするのですか、いかがですか？

A： 自分の仕事内容が、相手国のプラスになるのかマイナスになるのかは、常に自問自答しています。そこに正解はなく、そうした正解のない仕事をしているのが国連職員だともいえます。とにかく一人でも多くの人が幸せになればという思いで努力しています。

Q： 大変お忙しく、しかも海外でのご勤務ですが、私生活とのバランスはどのように取られていますか？また、女性がこうした仕事に就くことは大変ですか？

A： 家庭の平和維持活動がとても大変です。私は既婚者で家族を東京に残して働いていますので、家族の理解が重要です。国連機関は女性が多い職場ですが、中には一歳の子供を海外の職場に連れてきている人もいます。欧米では、奥さんの仕事に旦那さんがついていくことがしばしばあります。旦那さんが海外で主夫をし、奥さんが外へ出て働いています。働き方には様々な形があると思います。

Q： 命の危険を感じることはありますか？

A： アルジェリアで働いているときに、職場近くで大きなテロが起きたことはあります。コンゴ民主共和国も決して安全な国とはいえませんが、現地の状況をよく知っている人が必ずいるので、その人の情報に頼ることが大事です。少しでも危険度を低く

する努力をしています。また、レスト&レスキューというシステムがあり、8 週間に 1 度(数日間)は勤務国の外に出て休息を取ることができます。この制度により、気持ちをリフレッシュして再度勤務にあたることができます。

Q： 最後に、生徒へのアドバイスをお願いします。

A： 誰の話でも結構ですから、興味の湧いたことは自分で調べてみてください。その結果、新たに理解することも大事ですが、それ以上に、調べたという行為自体に意味があります。皆さんの将来に必ず役立つことですので、是非実践してみてください。

■生徒の感想

○僕は、仕事は変えずに続けていく方がよいと思っていましたが、自分のやりたいことをするために仕事を変えることは海外では当たり前だと知って驚きました。やらされるのではなく、自ら行動をおこすことの大切さを痛感しました。(略) 自信と謙虚という話をされたときに、自分は自信がないのに変なプライドをもっているため何も行動できないと思うので、よいバランスでどちらももつことが大切だと思いました。

(一年・男子)

○榎谷さんは、平和を願って、危険な地域で自らも苦悩しながら、平和のために行動していらっしゃるの、勇気と行動力のある人だと思いました。国連職員とは、すぐに成果が実感できるわけではないけど、平和のために直接働ける素晴らしい仕事だと思いました。(二年・女子)

◆■1月13日(金)

■職業・学問体験プログラム 医学生命系

「動物の病気と人間の病気」

〔講師〕加藤元(ダクタリ動物病院院長)

■講義の要旨

動物病院の院長として

加藤院長が動物に興味をもったきっかけは、小学校四年時に『愛馬読本』(小津茂郎著、大日本雄弁会講談社、1941年)を読んだことでした。当時は帝国主義の時代で、多くの方は自分の名前は書いても文章は読めないような時代でもありました。加藤院長はアフリカ象が好きになりました。そうした中で動物をよ

く観察すると分かってくるのが面白いと感じるようになったそうです。

大学を卒業した後、神戸市立王子動物園での獣医技師を経て東京にダクタリ動物病院を開院されました。海外との交流では、1973年のカンザス州立大学をはじめとして、数々の大学で客員教授を務められました。

汎動物学とは

汎動物学 (zoobiquity) は、生き物に関する医学的な知識としてのバイオメディカル・サイエンスを根本に据える考え方です。獣医学と医学は、バイオメディカル・サイエンスを人間に応用するか動物に応用するかの違い、動物に応用する場合なら犬か猫か象か…という点が違うだけで、診断、治療における根本的なメカニズムは同じであるというものです。これを加藤院長は "One Health One Medicine" という言葉で表現されました。

日本の獣医学とその教育

人間は哺乳類であり、同じ哺乳類の動物も癌、心臓病、感染症、虫歯、白内障・緑内障など、人間と同じ病気に罹ります。ところが、多くの宗教で人間は万物の霊長であるとする非科学的な人間観が形成され、歴史の中でそうした誤った認識が医学にも獣医学にも影響を及ぼしてきました。

加藤院長は、獣医学部がある唯一の国立大学である北海道大学で学ばれましたが、世界の中で獣医学の最高峰はアメリカです。アメリカでは、1930年代から全米獣医学会／獣医師会 (AVMA) が大学の基準を定め、全ての獣医科大学を認定してきました。アメリカの獣医科大学の専門課程では、1, 2年目に臨床に必要な基礎的な学問を修め、3, 4年目には大学の教育病院 (アメリカでは大学の医学部附属病院という制度はなく、病院そのものが大学です) で全科にわたって患者を診療します。それは 365日・24時間で、休診日も診療時間ありません。医師・獣医師は、いついかなるときも患者と向き合う覚悟がなければ、なっちはいけない職業なのです。

アメリカでは、医師、獣医師ともに大学を卒業すれば一人前であって、見習いとして患者に対することはありません。このようなこともあり、アメリカでは約 8万人 (日本は約

3.5万人) の獣医師のうち、非臨床医と臨床医の構成比は 1:9 (日本は 1:1) です。獣医師の免許を有する人の活躍の場が、日米でかなり異なることを知りました。また、AVMAの基準を満たす大学はアメリカに 29、カナダに 4、イギリスに 1 などですが、日本にはありません。我が国の獣医学部も農学部獣医学科も、世界的な基準を満たさない、いわば遅れた状況に甘んじているというのが現状です。

HANBについて

次に、人間と動物と自然を科学的に大切にするという「ヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンド (HANB)」についてお話をいただきました。アメリカでは、1940年代に児童カウンセリングに動物 (犬) を介在させたことを契機にして動物介在療法 (AAT) が徐々に広がり、1970年代になって、人間と動物の相互作用をめぐる科学を HANB と呼ぶようになりました。

加藤院長からは、その具体例の一つとして陽性強化法 (PEM) について、人間や動物の成長と合わせた合理性を説明されました。PEMは、ハーゲンベックが猛獣の訓練・調教に用いて知られるようになった方法です (*1)。かつて人間社会で躰とは叱ることであり、強制することでした。これは陰性強化法 (NEM) と呼ばれますが、理由が分かる年齢にならないと人間でも動物でも叱ったとき理解されず、無意味な強制で終わります。社会的な感受性期 (言って分かるようになる、いわば躰が受け入れられるようになる時期) は、人間では生後 10歳、犬や猫では 4か月です。

さらに 1980年代以降の研究によれば、動物介在療法の場合、ICU退院 1年後の生存率をペットの飼い主か否か、特別養護老人ホームにおける寝たきりの人の離床率を犬猫と同居しているか否かで比較すると、いずれも動物が身近に居るケースの方が良好であるということが分かってきました。これらが動物介在活動 (AAA)、動物介在療法、動物介在教育 (AAE) として広まりつつあります。

■生徒の感想

○獣医師と医師はつながっている。だから、動物のことを考えるときも人間のことを考

1 ハーゲンベック, Carl Hagenbeck (1844~1913) は野生動物を扱うドイツの商人で、ヨーロッパ各地の動物園やアメリカの興行師バーナム, Phineas Taylor Barnum (1810~1891) のサーカスなどに動物を提供しました。ハーゲンベックは、無柵放養式展示の近代的動物園を作り、個人経営の動物園としてはドイツで最も成功を収め、1907年にはハンブルクに常設されました。

えるときも、地球全体を視野に入れることが大切だと思いました。今の私にとって、生物全てのことを考えるということは難しいです。想像がつかないぐらいです。だから、まずは互いの違いや共通点から学んでいきたいと思います。(一年・女子)

○僕は、動物を飼う理由について、その動物自体が可愛いからという人間主体の考えでいましたが、動物を飼うことには病気になる確率を下げたり、気分が良くなるという体調に関係する重要な効果があると知り、驚きました。これらのことから、病気を治すのは薬だけではなく、家族の一員であるペットも効果的であると分かりました。

(二年・男子)

○人は知らないうちに人が一番の存在だと思ってしまうけれど、実は自然によって生かされている存在だということに気が付きました。だから、周りの自然とかに感謝することがすごく大切だと思いました。また、加藤先生の言葉の一つ一つが心にしみました。何をやるにしても、大切なことを今回の講義で学ぶことができました。

(二年・女子)

○今日のお話を聞いて、アメリカと日本の獣医学についての姿勢の違いを知り、日本はこんなにも遅れているのかと思い、愕然としました。獣医師・医師の免許を取得するまでのプロセスは、日本でもより積極的に取り入れるべきだと思いました。

(二年・女子)

◆ 2月1日(水)

■ 職業・学問体験プログラム 医学生命系

〔講師〕吉田隆浩(救急・災害医学分野高次救命センター併任講師)

〔日程〕

14:15~15:05 講演「災害時医療の現場から」

15:50~17:00 実習「災害時の救急医療(START法/トリアージタグを書いてみよう)」

岐阜大学医学部附属病院救急・災害医学分野高次救命治療センターより講師をお招きし、救急医療とは何か、DMATがどのような場面で活躍するのかについて、熊本大地震でのご経験をもとに講演頂きました。また、実際に救急医療の現場で用いられるトリアージタグを使用して、START法について実習を実施しました。講演には1,2年生の希望者合わせ

て128人が、実習には53人が参加しました。

■ 講演の要旨

DMATとは

災害発生後72時間以内を活動期間とする災害時対応訓練を受けた医師・看護師・ロジ(事務員)によって構成される医療チームのことである。ロジとは、DMAT同士やDMATと現地との間での情報交換を担当する事務員のこと。阪神淡路大震災を機に設置され、現在9000人以上がDMAT隊員として登録されている。

災害とは

「需要と供給のバランスが崩れている状態」を指す。多くの方々は大規模な自然災害や人災を想像するが、例えばバス一台が横転する事故があり、迅速にけが人を救助するために、少人数であっても順位つけせざるを得ない場面もある。これらも災害の一つである。救急対応=災害対応であればいいが、現実には救急医療≠災害医療である。

現場では

限られた人員や物資を適切に被災者に割り当てることが求められる。その具体的な方法としてトリアージがある。トリアージとは災害時の初期医療行為の一つで、被災者にとって治療が必要かどうか、必要であればどの程度かを見分けることである。「生命」「機能」「整容」という順番で優先順位をつけ、重篤な患者から治療が行えるようにする。本来、災害現場に派遣された医療者は重傷者の治療に専念すべきであるが、治療に専念できない場合も現実には存在する。人員の限られた現場では、DMATに課せられることは多く、熊本大震災においても、DMATをどの地域にどれだけ割り振るのかを決めたり、ドクターヘリの運航管理も自分たちでおこなったりしていた。事前研修していた内容も大切だが、現場では例外の連続で、その場その場で最適な判断ができるような柔軟性が必須となる。

リーダーとして

岐阜高校の皆さんには医療関係の仕事を目指すなら、ぜひとも医者を目指し、リーダーシップを発揮してほしい。

■ 実習「トリアージタグを書いてみよう」

災害時の初期振り分け方法(傷病者の区分け方法)としてSTART法の実習を体験した。START法では、様態に応じて傷病者に、傷病者の状態を記したカード(トリアージタグ)

をつける。トリアージタグは四色に分類され、歩ける(緊急時に逃げられる)人は「緑」、歩けない人の中で生命の危機にかかわるような緊急の治療を必要としない人を「黄」、今すぐにも救命行為が必要な人を「赤」と割り振る。さらに治療をしても現場では助けられない人を「黒」とする。「黒」をつけるのは非常に重要な判断だが、それによってより多くの人を助けることが求められる。

1次トリアージは多くの場合2人1組で約30秒の短い間に行く。人命に関わる重要事項なので、傷病者の様態や情報はもちろん、時間や診察場所、診察者名など詳細な情報も書き落としはならない。下敷きなどない不安定な状態で、黒いボールペンで転写紙に写るように筆圧濃く書くことが大切である。実際に書いてみると分かるが、30秒で判断し書くのは大変難しい。しかし、トリアージをするために特別な資格は必要ない。実際に静岡では一般向けの研修も行われている。

■生徒の感想

- 今回の講演でDMATや災害時医療について初めて知った。医者は病院で働く人だけかと思っていたが、こんなに体力が必要な場面で働くこともあることに驚いた。
- テレビや写真でしか見たことのなかったトリアージを実際に経験できてよかった。周囲が動揺していても、自分は冷静に状況判断できるような人材になれるように頑張っていきたい。
- 災害の現場で医療従事者に求められていることは非常に多い。初めてだからという言い訳はできず、ドクターヘリの運行管理も医師がおこなったと聞き、災害時医療の現場の厳しさを改めて感じた。
- 治療以外の仕事をいかに分担して医師を治療に集中させるかが大切だが、情報伝達やトリアージも責任が重く、医療従事者ひとりひとりが「自分が動かなければならない」という意識をもち、積極的に活動することが求められていると感じた。

◆■2月3日(金)

■職業・学問体験プログラム 男女参画系

女子大学院生による出前講座「進路選択、そして今」

〔講師〕寺添朱里(岐阜大学大学院工学研究

科生命工学専攻博士課程前期)

大学の学部と大学院の違いや研究内容について具体例を用いながらわかりやすく説明していただきました。その後、進路選択の経緯や進路選択をするにあたって大切なことなどをお話ししていただきました。参加者は46人でした。

■講演の要旨 研究について

私は「酵素を使ってモノづくりをすること」を研究しています。具体的には微生物が示す新しい反応(現象)を発見し、酵素がもつ新しい変換能力の探索を行っています。流れとして、①PLEによる反応、②菌の採取、③活性菌の分析という手順で研究をおこなっています。

自然界には私たちが知らない微生物が数多く生息しています。新種の微生物を見つけることができれば、新しい機能をもった酵素の発見につながる大きな可能性をもっています。そのために、様々な土地から採取した土壌から、目的の化学反応へと導くことのできる微生物を探しています。見つけた微生物による酵素反応、有機化学、遺伝子工学などを駆使し活用することで、医農薬、食品などへの応用の可能性を追究しています。

進路選択について

大学選びの際、自分の夢がよく分からず、大学に入ってから、自分が選んだ進路に不安に感じたこともあります。しかし、大学時代に環境にやさしいモノづくりをしたいという夢ができました。その時々で全力で悩んで出した答えは全て正解だと思います。小さい頃からの夢をひとつひとつみれば一貫性がないようですが、興味があることから大学を選び、興味のあることに対して自ら行動することで、小さい頃からの夢のすべてを実現できる大きな一つの夢をもつことができました。自分の興味があることに対して、自分から行動すれば、色々なことにチャレンジできるチャンスが大学にはあります。どこの大学に進学するかも大切ですが、それ以上にその大学でどう行動するか、何に挑戦するかが大切です。

■生徒の感想

- 自分の興味をもった分野を探求、追求する面白さや、やりがいをお話から感じるこ

ができました。

- 大学院の研究では自らが新たな研究・発見に携わることができるという魅力がわかりました。
- 自分の学びたいことを学べる楽しい大学生活を送るためにも『今』の生活・勉強を頑張りたいです。

◆■1月20日(金)

■国際交流体験プログラム

職業・学問体験プログラム 社会国際系

「グローバル人材として生きるとは ～日本人としてのアイデンティティーを磨く～」

〔講師〕須原清貴（ドミノピザジャパン執行役員）

〔日程〕14:15～15:20 講演会・質疑応答

16:00～17:30 英語での討論

〔参加者〕講演会：1・2年生全員

討論：56人（1,2年生希望者・第3回アメリカ研修参加者）

本校卒業生でもあり、ハーバード大学でMBAを取得し、会社経営を行ってきた須原氏より、世界最高峰のハーバードで取り上げられる日本企業の卓越した戦略、日本人のリーダーシップなどを紹介して頂きながら、日本の強みを知り、日本がこれから世界をどうリードしていくかを考え、日本人としてのアイデンティティーを磨く機会として企画されました。また、岐阜高校在学中から留学時のこと、BCGでの勤務など、現在に至るキャリア形成についてと、グローバル社会の中で活躍する人材に求められるものは何か、今高校生として磨いてほしい資質は何か、日本人の世界に誇るべきものは何かなどについて講演していただきました。さらに、第3回アメリカ研修の事前研修を兼ね、ハーバード大学で行われるディスカッションスタイルをベースにした英語での討論をおこないました。

■講演録

自分の経歴から

皆さんがこれから先、グローバル人材としてどうやったら活躍できるか、確実なことは分かりません。しかし、私がこれまで、こうやって進んできた、こんな失敗をしてきた、ということをお伝えします。その中で、何か感じることがあったら、行動に移してみてください。グローバル＝海外ではありません。私は

日本や岐阜で頑張っていくという人たちにとっても、グローバルという考え方は必ず役立つと考えています。

私が岐阜高校に入学して驚いたことがまず校歌です。国家のために明け暮れ学ぶ。最初、とんでもない学校に入学したと思いました。しかし、1年もすると、その言葉がどんどん染み入るようになってきました。そして男子クラスです。クラス全員が男子です。こういったことに最初驚きましたが、時間の経過とともに様々なことを受け入れ、岐阜高生としての誇りをもち、自信をもって卒業することができました。それが自分の人生の原点であると、今では自信をもっていえます。

岐阜高校卒業後、都内の私立大学へ進学し、商社時代にはニューヨークに駐在していました。1991年に入社、1992年にニューヨーク駐在です。当時の総合商社では、ニューヨークかロンドンに駐在した人が出世頭です。その後ハーバードビジネススクールへ。めちゃくちゃ難しい大学です。その後、某コンサルティンググループへ。戦略コンサルティングの世界のトップ中のトップです。某英会話学校で経営者COOとして働いて、会社を上場させました。印刷会社では社長をやりました。そして某社の執行役員をやりました。私の経歴はこんな感じです。何年に何、何年に何、これはかっこいいですよ。ところが実際何が起こったか。大リストラです。2年の間に25人、その後2年間で3人、解雇されました。胃潰瘍で2回入院しました。3ヶ月間何も仕事がない。ようやく隣の部署に移ったと思ったら、直属の上司が銅の取引でなんと3,000億円損をしました。某コンサルティンググループではクライアントに沢山迷惑をかけ、責任を感じて6ヶ月間不眠症になりました。某英会話学校での最初は売り上げが伸び、利益も伸び、絶好調でした。でもそれがピークでした。そこからは奈落の底に落ちていく。そして最後は業績と株価の低迷の責任で私はクビになってしまいました。某社ではなかなか社長そりが合わず、最終的には部下が大きな失敗をして、その責任で辞任させられました。ですから今日は、成功者の話ではなく苦勞した人の話を聞いていると思っていただくとありがたいと思います。皆さん自身も勉強、スポーツ、あるいはスポーツ以外の色々な文化系の部活、学校以外の活動をやっていますよね。少しずつ自分自身のレベルあるいは成果をあげることに對して時間を使っているわ

けです。右肩上がりにきれいに真っ直ぐ上がっていったら、こんな幸せなことはないですが、きれいに上がっていくことはありません。踊り場があります。苦しい時が続く、気が付くとポンとうまくなる。例えば英語。一生懸命自分で頑張る。僕は大学3年生の時にアメリカに留学してコロラド州のデンヴァーで寮に入りました。寮に入って2回目の週末に友だちが、気を使ってみんなで遊園地に行こうって誘ってくれました。全然英語はわかりませんが、一緒についていきました。アメリカの遊園地は夜の12時までやっています。22時くらいになるともうへとへとです。家に帰りたいのですが、ちょうどジェットコースターに乗り終えた後、友だちからどうしたい？ **What do you want?** と聞かれたので、僕は、**I want to go back!** 家に帰りたいという意味で言ったんです。そしたら、友だちが **Really?** と言ってもう一度ジェットコースターです。日付けが変わるまでやらされました。こんな調子だったのですが、それが6ヶ月たった時にふっと気が付いたら、隣のテーブルに座っている人たちの声が聞こえ始めました。これができるようになる瞬間です。右肩上がりの直線上には伸びません。何でもそうだと思います。これを成長の踊り場という風に呼んでいますけど、この踊り場の中で、皆さん自身がコントロール不能なことに文句を言うのではなく、コントロール可能なことに専念して、そこで一生懸命続けられるかどうかにかかっていると思います。

ファーストリテイリングというユニクロのホールディングカンパニー（親会社）の株主ですが、ずーっと低迷し、何とか頑張って上がる。でもまた落ちる。また上がる、でもまた落ちる。組織でも個人でもこのように上がっていきます。この会社をリードしているのは有名な柳井さんという方です。彼のポリシーは、「失敗を恐れてはいけない」、「10回新しいことを始めたら9回は失敗する」、「収益を上げられない会社は解散すべき」、「他人に評価されることで人は働く」、「計画したら必ず実行する」だそうです。特に「10回やったら9回は失敗する」を続けるのです。それが世界で戦う、グローバルで戦うための基本中の基本だと僕は思っています。

グローバル社会で必要なこと

さて安倍政権が、憲法改正をしたがっているってことは知っていますよね、賛成の人？ 反対の人？ わからない人？ 考えたことも

ない人？ トランプ氏の就任演説がこれからすぐあります。彼の政策に対して賛成の人？ 例えば、メキシコとの国境に壁を作ると言っていますよね。あれに対して賛成の人？ 反対の人？ ロシアとの北方領土の問題がありますよね。知っている人？ こうしたことに對して、英語である必要はなく日本語でいいので自分の考えをちゃんともてているかどうか。グローバルに生きていくうえで大切なことです。考えたことがないとか、わからないとかいうのは一切通用しません。ハーバードビジネススクールでの授業では、プレッシャーとスピードでとてもタフですけども、教室の外が同じぐらいタフなんです。まず、やっぱり復習はしないとイケない。復習の時間の後すぐに翌日の授業の予習が始まります。1つの授業に対して大体3時間かかります。大体寝るのは23時。一日2つ授業、2つ復習、3つ予習。これが2年間ずーっと続きます。英語のハンデもあり、相手が何を言っているかよくわかりません。自分も何を言っているかよくわかりません。クラスの中で発言しないと落第です。完全な相対評価です。それぞれのクラスで下位10%はABCランクのCをつけられます。そのCを1年間で3つとったら退学です。どうやってこの中で生き延びるのか？ そのときに自分で必死になって考えたのは、日本人であることを強みにすることです。自分は日本人なんだ、日本人はこういう風に考えるんだ、日本の会社はこういう風に考えるんだ、と日本人の軸でしっかりと発信していくようになりました。このタフなスケジュールの中でそうすることによって自分の立ち位置を身に付けた、というのが成果であったと思っています。ファイナンスやマーケティングのことを勉強したことについても意味がありましたが、アイデンティティーが重要だということを教えてもらった、というのがハーバードビジネススクールでの2年間でした。

おもてなしっていいですよ。日本のサービス、接客、それらを言い表す一つのキーワードです。僕からしてみるとあんなくだらないものはありません。おもてなしそのものがくだらないのではない。おもてなしを本当の意味の形にしていけないことが日本のサービス業のものすごく弱いところ。素晴らしいレベルでのサービスをしておきながら、日本のサービスは安いんです。安いということは、お客様はそれに対して価値を認めていないと

ということなんです。素晴らしいおもてなしだったら、もっと高い価格をチャージできるはずです。でも、それができていない。理由はいろいろとあるのですが、日本のおもてなしは自己満足に近いのです。日本の労働生産性を世界の各業界の中においてどれくらいの位置づけにあるかをグラフ化した、日本の内閣府が出しているデータを参照すると、製造業は労働生産性が非常に高く、日本のサービス業は非常に生産性が低い。日本のおもてなしはすごいんだ、という短絡的な発想でいると、大きく間違った方向に進みます。物差しを自分たちの物差しで見ないことを、仕事をしながらずっと感じていました。

皆さんは高校一年生、二年生です。どんなことをやるかというと思いますか？ 前提条件として、英語のコミュニケーション能力は当然です。3つのことをお勧めします。

歴史認識と宗教観の醸成

これはしっかりとやっておくと得します。例えば第一次世界大戦以降の日本の歴史はしっかりと認識しておくべきです。私のころの日本史の授業は、明治維新から第一次世界大戦まではしっかりと時間をかけてやるんですけど、なぜか第一次世界大戦が終わると駆け足で終わってしまう、というものでした。第一次世界大戦以降の日本がたどってきた歴史というのが、この東アジアにおける、あるいは世界における日本のポジショニングをものすごく重要に物語っていますので、そこはしっかりとやっておく必要があると思います。

ネゴシエーション

ディベート、ディスカッションではありません。交渉です。興味をもってみてください。非常に重要なことです。

プログラミング基礎

これから人工知能なしでは、世の中回っていきません。人工知能をどういう風に使いこなせるか。皆さん全員がプログラミングのプロ、専門家になる必要はありません。でも、プログラミングの考え方は身に付けておくと、プログラマーあるいはその専門家と、ちゃんとしたコミュニケーションができるようになります。

さあ、ここで、英語の先生がいらっしゃるのでも怒られちゃうかもしれないですけども、英語のコミュニケーションはこの程度で十分可能であるということをお伝えします。単語（ボキャブラリー、イディオム、語彙）と、時制の2つだけです。読む、書く、聞く、話

す、英語の4技能も全て単語です。これが分かっているかどうかで全てが変わってきます。丸暗記ではだめですよ、背景とコンテキスト、文章で理解してください。例えば、ちょっとイメージしてください。体育の体育教官室に主任の先生が新しく赴任されました。自分より年上の先生もいらっしやいます。その時に、どういう挨拶をしますか？ その先生は、多分こんな挨拶をするでしょうね。『本年度、当校の保健体育主任を拝命しました須原でございます。私のような若輩者にとって、この職務をどこまでできるかわかりません。どうぞ皆様方のご指導、ご鞭撻を賜り、直面する課題を解決できるよう、微力ながら邁進する所存でございます。』これを英語に直訳してみましょう。『My name is Suhara who was appointed to the chief of gymnastic exercise of this school. I am not sure whether I can accomplish the appointed tasks since I am not experienced enough. Therefore, though I have very poor ability, by sincerely seeking your guidance, I will make my best efforts to solve problems facing us.』これを外国人に言ったらどうなると思いますか？ アメリカやイギリス、シンガポールや学校で、この立場になってこの挨拶をしたら、誰も部下はついてこないはずですよ。こんな自信のない挨拶をする人物には、絶対ついてこないのです。ではどういう表現をすべきなのか。『Hi, my name is Kiyotaka. I am your new manager of G.E. team. I am aware that some of you have longer experience than me, but I have strong confidence that I can lead you all. In order to make ourselves successful to solve challenges and opportunities facing us, I encourage you to give me your honest inputs.』日本語に訳せば、『私が今日からあなた方の上司になった須原です。皆さんの数人は私の先輩ですが、私はあなた方を率いる自信があります。我々が直面する挑戦と機会を克服してチームとして成功させる為に、意見ある場合は、私に正直に進言することを奨励します。』英語を直訳する、あるいは日本語を直訳する。それでは、コミュニケーションは成立しない。文化的な背景とか、おかれている状況とか、そういったものを理解したうえで、単語、あるいはフレーズ、センテンスを作っていくことが、英語表現における重要なことだと思います。次に時制です。中学校でやったと思うので、皆

さんの中では、現在、過去、未来、現在進行形、過去進行形の問題を間違える人はほとんどいないと思います。ただ、実際のコミュニケーションの中では、日本人は時制が下手くそです。時制を間違えることによって、相手に全く意味が伝わらないことが多いのです。それと仮定法ですね。もし、こうだったら、ああだったのにな、という仮定法過去とか、仮定法過去完了とか、非常によく使います。極論を言うと、この2つ（語彙力と時制）がしっかりしているだけで十分だと思います。三単現のS、分詞、動名詞など、わかっていたほうがいいとは思いますが、その違いを完璧に理解していようとそうでなかりと、実際のコミュニケーションにおいてはあまり関係ありません。

キャリアについて

やりたいことを仕事にする、これは幸せですよ。そのためにも皆さんは今、将来自分は何をしたいのか、どういう人間なのか、何にむいているのか、ということを一生涯懸命考えていると思います。ここは一生涯懸命考えてください。でも逆の発想もあります。就いた仕事をやりたいことにすればいいのです。私の一番上の子が大学3年生で、今ちょうど就職活動をしています。インターンシップとかいろいろやりながら、あれやこれやと模索しています。家に帰って話をすると、やっぱり何をしていいか分からないと言います。当然だと思います。分からないのは当然です。それでいいんですよ。分からないんだったら、後から就いた仕事をやりたいことにすればいい、それぐらいの柔軟な考え方をしていただければ、それで十分かなと思います。やりたいことを学生時代にみつけられる、これは非常にいいことなんですけども、やりたいことが見つからないのもそれはそれで当然ですので、あまり深刻に考えすぎないというのが重要なかなと思います。

■質疑応答

Q：先ほどサービス業の生産性が悪くて、自己満足で終わっているという話があったのですが、サービスを低価格で提供することを売りにされている方もいらっしゃると思います。それも一つの形として成立していると思うのですが…

A：誰かから何かを言われたときに完全にそれを鵜呑みにするのではなく、自分で一旦受け止めたうえで、やっぱり違う考え方

をもってるんですけども、どう思われますか？ということをお聞きください。質問に答えると、そういう風に考えてやっておられる方は、素晴らしいと思います。いわゆるNPOとか、色々なところから助成を受けながら、安価なサービス、しかも上質なものを出していく、それに対して思いをもってやっておられる方は沢山いらっしゃいます。どんどんそういう方が出ていくことは多様性が出てきて非常に素晴らしいことだと思います。ただ一方で、NPOの難しいところはなかなか長続きしない点です。一番強い思いをもってやり始めた人は、ぎりぎりに陥っても大丈夫なんですけども、でもその人の後継者がなかなか育たない。だからなかなか次につながらない。それを応援してくれる人がいろんな意味で続いていかないからというのが実態としてあります。NPOはNPOでよいのですが、長く続けるためにはやっぱり利益がでてこないといけない。利益があって初めてそれが次の投資につながっていく。そのサイクルを作っていくためには、ちゃんとした価格で、ちゃんとした売上げをいただく必要がある、そういう世界もあるということです。これはNPO的な発想を否定するものではありません。

Q：やりたいことを仕事にするということの逆の発想で、仕事をやりたいことにするとおっしゃったことが、自分の考えになかったのですごく驚いたんですけど、もう少し詳しく教えてもらいたいです。

A：某英会話学校をクビになったという話がありましたよね。その後、印刷系の会社の社長をやりました。印刷屋の社長をやるときに、実は、自暴自棄になっていたんです。某英会話学校で、教育大好きだったし相当頑張ったんだけど、認められずクビになってやる気をなくして、ヘッドハンターから声をかけられて、某印刷会社が社長を探しているから、やってみないかって。結構会社は伸びているから楽できるかな、と思っていきました。印刷はずっと業界としてそのときも下降曲線にありましたし、これからも減っていくんです。いまさら俺が、印刷かよ…と思いながら、でも楽したいから行きました。行ってみてわかったのは、会社を経営するということは、自分が会社を常に成長させる、あるいは、自分が仲間と一緒に、社員と一緒に常に成長する、

それをやり続けるのが、会社経営だということ。印刷会社で仲間と一緒にあれやこれやと考える中で気づきました。そうすると、ずっと俺がやりたいのは教育だったんだ、でもサービス業に身を置いていれば、常にその教育ができるんだ、部下に対して、自分に対してもそうですよ。そういう風に考え始めたら途端に仕事が面白くなった。そうしたらやっぱり成果は出るんですよ。行って見て、やってみて、就職試験を受けて、受かって、それで何かいいことがあって、そのうえで次に進んでいく。皆さんの中で、日本の一部上場企業に入りたいと思っている人、何人かいると思います。どうぞ行ってみてください。素晴らしい会社ですから。素晴らしい人たちが沢山います。でもそこは、やりたいことを仕事にできるかは、全く分かりません。日本の会社は営業をやりたいと採用してくれるわけでもなく、マーケティングをやりたいと採用してくれるわけでもないですから。まず一旦新卒社員をガサッと採用して、その中で人事を振り分けるんです。何をやらされるか、全く分かりません。だとしたら、そこで与えられたことをやりたいことにするしか方法はありません。もしそのリスクを取りたくないのだったら、日本以外の会社にいったほうが良いと思います。そういう採用の仕方をしているのは、日本の会社だけです。もし本当にやりたいことが分かっているのであれば、僕は日本の会社を勧めません。日本の会社に行くのだったら、仕事をやりたいことにするというアプローチも大事だと思います。

最後に

岐阜高校の校歌、僕は大好きです。最初は、「国家のために明け暮れ学ぶ」が大嫌いでした。でも今こうして振り返ってみると、グローバル人材のヒントは満載です。「華陽の健児ここにうまれて国家のために明け暮れ学ぶ」。やはり日本人として、岐阜高校のこのコミュニティーの仲間として、自分のアイデンティティーをもつ。それで学問や、仕事に立ち向かう。学海の波とか仕事とか、本当に荒いんですよ。海岸は滅茶苦茶遠いんです。でも常に自分を奮い立たせながら、絶対にあきらめず、百折不撓で努力を続けるんですよ。ここで成長の踊り場の話です。成長の踊り場に立たされた時に、コントロール可能なことに

専念する、勇気と自信をもって。この岐阜高校の校歌はそのヒントが満載であると思っています。そういった中で頑張っておられる皆さんを応援するために、私の話がちょっとでもヒントになればと思いますし、こういう機会を頂けたことを、感謝申し上げます。

■生徒の感想

- 英語でのコミュニケーションについて、直訳することと相手に伝えることは違うということが例から良く分かりました。普段の授業では英語を分かったつもりでいたけれど、例文の日本語を見たとき、全く言葉が出てきませんでした。でもスライドで出てきた言葉は、習った単語と文法ばかりでした。(一年・女子)
- 日本人としてのアイデンティティーを磨くことで、世界の人々に自分の考えを発信できることを学びました。日本はどんな国なのかを知っておくことで、それを軸として自分の考えを伝えることができると知り、新聞や本をもっと読んで、もっともっと日本について知ろうと思いました。(1年男子)
- 成長の踊り場。人間は都合良く常に成長することはできず、伸びたり伸びなかったりしながらだんだんと成長していくということが分かった。私も途中で腐らず、努力を続けていきたいと思った。(一年・女子)
- やりたい仕事をみつけるのは大切、でも見つけられなくても、それは当然だ、ということに少し安心しました。今まで生きてきて、目指すものがいつまでたっても見つけられず、先生や家族が聞いてくることに苦痛を感じていましたが、出会った仕事をやりたい仕事にする、というように、今ある現状に熱心に打ち込んでいくことも大切だとわかりました。(一年・女子)
- 自分がまさに聞きたかった話を聞けました。企業経営などに興味があり、経済学部を希望していますが、勉強の成果が思うように出ず、部活でも調子が悪く、非常に悩んでいました。成長の踊り場の話を聞いて、今が踏ん張りどころだと思いました。もう一度気合を入れ直して頑張りたいと思います。(一年・男子)
- 岐阜高校のOBはすごい。自分も呼ばれるぐらいになりたいと思いました。(一年・男子)
- 自分の意見を持ち、発信していく大切さを改めて実感しました。AIが進出してきて人

間の職がどんどん失われていくこの時代に、先生が言われたように、様々な問題に対して、色々な視点から、自分の考えをもつことが重要だと思いました。（一年・女子）

○岐阜高校の校歌にはグローバル人材として生きるための秘訣が隠されていると思いました。また、グローバル人材として成功するためには、その国の文化や宗教、価値観をしっかりと学び理解することでコミュニケーションを上手にすることが大切だとわかりました。（二年・女子）

○日本にいてもグローバルに考えることは必要だと認識できました。そのために日本人としてのアイデンティティーを磨くことが必要だと強く感じました。（二年・女子）